



TITLE:

基研研究部員会議報告

AUTHOR(S):

CITATION:

基研研究部員会議報告. 物性研究 1967, 7(6): 528-535

ISSUE DATE:

1967-03-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/85988>

RIGHT:

資料 2

基 研 研 究 部 員 会 議 報 告

議長 中野薫夫、小野周、田中正

2月16, 17日

出席者 41名 運営委員(17名中)10名, 研究部員(30名中)

於：基研小講義室

22名, 所員(7名中)7名, observer 2名

1 議長団報告

(イ) 研究計画提案決定のあり方について

Informal meeting^を最初に行い内容の議論をする。formalな議題で大
体の枠づけをし、個々の予算は世話人の話し合いで案を作る。

決定のときは報告に対して全員で検討する。

(ロ) 祝賀パーティの件

2月18日(金) p.m. 6.00 ~ 8.00 楽友会館にて

なおパーティ欠席の研究部員会議構成メンバーからは記念品代を頂く。

記念品は"置時計"と決定(ただしJec奢叉時計)

(ハ) 基研職員研修旅行の件

今年度5名行なった。

良い結果が得られているので今後も他の人を計画したい。

2 基研報告

人事(10月以降の移動のみ)

河原林研 11月1日付助教授に(東大教養より)

片山泰久 11月1日付京大工学部原子核工学へ

星崎憲夫(予定) 3月1日付 助教授

アトム型

江夏 弘(立命大、教授) 10月より6ヶ月

鳴海 元(広大理) 10月より3ヶ月

柏村昌平(名大理、助手) 11月頃1ヶ月

田中友安(American Catholic Uni. 教授) 12月頃1ヶ月

木下紀正(東大理、D2) 11月半ばから1ヶ月

大貫義郎 (名大理、助教授) 2月 1ヶ月

招聘外人

H.Haken (シュットガルト理論物理学研究所)

G.Lamdauer (Institut für plasmaphysik) (3ヶ月)

K.Friedrichs (New York Univ.)

M.Lax (Bell Telephone Lab.)

R.Phillips (Stanford Univ.)

Y.B.Kim (Bell Telephone Lab.)

3月予定

Lattes (サンパウロ大学教授)

3 外人招聘

4 2年度予定

B.Sørensen (Nordita) (3ヶ月) (A.Bohr の弟子)

A.Bohr (Copenhagen) (1ヶ月)

H.Bethe (Cornell) (1)

M.Baranger (UCLA) (1)

A. de. Shalit (Weizmann Inst.) (1) } 原子核国際会議出席

C.Bloch (Saclay) (1)

N.Lame (Harwell) (1)

E.Wigner (Princeton) (1)

B.G.Wilson (Calgary) (3) 宇宙線関係

W.Heisenberg ... 滞在費は不要 学振、仁科、湯川財団援助

(4月16日～5月15日)

B.Vitale (6ヶ月)

Laverick (ANL) (1ヶ月) 低温国際会議出席 (4.9 ~ 15)

P.T.Matthews (Imperial College)

A.T.Lea (Copenhagen Inst.)

E.H.Roffman (Princeton 高等科学研究所)

○全部は無理なので基研で適当にアレンジして来て頂く。

資料2

物性関係は

○ 43年度に統計力学の国際会議があるので願います。

○ 4月の学会のときに中国人を招待する予定が少し遅延した。

京大外人宿舎の件

(事務長) 外人宿舎が完成した。家族用居室6 夫婦用居室6 単身用居室

3

使用料月額(光熱費含む) 家族用23,100円

夫婦用18,900円 独身用9,000円

使用する場合には早目に手続きを完了したい。又1ヶ月単位でないと、滞在費の予算と直結している人はむづかしい。

3' 新研究部員承認

○ 素粒子論関係の研究部員選挙の管理に当つた事務局より、受領者数より投票数が多い大学があつたので、これをいかにすべきかとの申し出があり、それに対して討論が行なわれた結果、今回の選挙は有効と認めることになった。但し選挙のやり方に関しては議論の余地があるので次の選挙迄に部員会の議題とするように申し送る。

従つて新研究部員は次のようになる。(任期42.4.1 ~ 44.3.31)

素粒子論関係(11名)(得票順)

池田 清美(東大理)

広重 昇(広大理)

丸森 寿夫(九大理)

猪木 慶治(東大理)

山本 邦夫(阪大教)

飯塚重五郎(金沢教)

植原 正行(九大理)

西島 和彦(東大理)

藤井 寛治(北大理)

原 康夫(東教大理)

大槻昭一郎(九大理)

物性関係(5名)

中島 貞雄 (東大物性研)

豊沢 豊 (〃 〃)

富田 和久 (京大理)

守谷 亨 (東大物性研)

三輪 浩 (阪大理)

* 研究計画に関する Informal meeting

素粒子論関係 (座長小川) 原子核関係 (座長安野) 物性関係 (座長芳田)
に分れて説明・討論が行われた。

4 Informal meeting 報告

4 2 年度に予想される員等旅費 670 万円

研究部員会議運営委員会 110

自由研究費 30

研修旅費 5

アトム型 奨学生的なもの 60

長期・短期 $40+\alpha$

談話会 $10+\beta$

計 $255+\alpha+\beta$
数万

を差引くと $415-(\alpha+\beta)$

従つて今回決定すべき金額は

$$\{415-(\alpha+\beta)\} \times \frac{2}{3} \approx 280 \text{ 万円} - \frac{2}{3}(\alpha+\beta)$$

校費は 330 万円

$$330 \times \frac{2}{3} = 220 \text{ 万円}$$

となる。今回応募の旅費請求総額は 676 万円

〃 校費 〃 141.3 万円

であつた。

資料 2

6 研究計画決定

()は要求額

議論の末以下のように決定した。長・短期所属も一部変更した。				
	研究会名	旅費	校費	備考
長期研究	素粒子の模型と構造	20 万円 (45)		
	高エネルギー素粒子反応	15 (30)		
	宇宙線・加速器領域における素粒子物理学	15 (35)		
	核構造と弱い相互作用	17 (35)	30万円(計算費)	
	天体物理の諸問題	5 (28)		
	原子核における4体相関	13 (15)		
	宇宙線による素粒子の研究	7 (20)	5 (アナリシス計算)	
	S行列と対称性	25 (50)		
	相転移	30 (47)	10 (計算費)	
	量子統計的凝縮系	10 (25)	3 (印刷費)	
短期研究	原子核における集団運動	12 (15)		
	Nonleptonic decay	15 (25)		
	素粒子の時空記述	10 (15)		
	Higher Resonance	10 (20)		
	Polarized Targetを用いた素粒子・原子核	18 (25)		
	星の進化	20 (35)	15 (計算費)	
	原子核国際会議の準備	30 (30)		
	1967 年核構造国際会議の為にサマースクール	0 (30)		
	非周期系物性の基礎理論	15 (40)		
	計算機 Simulation による多体問題	0 (30)		
モデルコンピュータ	多体問題	15 (40)	2 (印刷費)	
	相対論的2体方程式による核力の分析		30万(計算費) 20万(賃金)	
	秩序無秩序現象の電子計算機による Simulation	5 (10)	6.3 (磁気テープ)	
	生体高分子の π 電子論	0 (12)	5 (計算費)	アトム型にも応募
	1GeV 前後の強い相互作用	5 (10)	15 (計算費)	
	原子核の回転運動と Non Linear Effect	5 (6)	10 (賃金)	
	原子核による集団運動の非調和項の分析	2 (3)		
計		319 万円	151.3 万円	

5 アトム型の運営について

- 4 1年度後半に試験的に短期（1ヶ月）の制度をおきやつてみた（16万円）
短・長期（3～6ヶ月）合わせて（40+α）万円あれば何とか42年度は
運行できると思う。（min）
- 大学院の学生の短期アトムが増える可能性がある。

- ・ 判断がむづかしい。
- ・ もともと忙しいスタッフのためにもうけた制度ではないか。
- ・ 学生がしばらくよそへ行くことは非常に有効だから大いに利用させるべきだ。
- ・ 若い人には費用は旅費宿泊費位でアツのでない程度でよい。
- ・ 場合によつては談話会に来て頂くことも考えられる。
- ・ 人選、費用については基研所員会に任せる。

7 任期制について

アンケートをとつた結果返事は研究機関7、旧所員6であつた。そのまとめの報告と意見は大体次のようになる。

- 任期制には、大部分が賛成であるが、教授などは少しゆるくしても良いのではないか。
- 地方の場合には、特色を作る必要上あまり積極的ではない。
- 住宅問題を何とか解決出来ないか。共同利用研であるとか、任期があるということで、公務員住宅の優先や交代が不可能か、又研究所の住宅を持てないか。
- 他が動かないとやりにくい、基研は現状を維持してほしい。

（提案）

D.C. をもつ国立大学に於いては次のことを申し合わせたらどうか。

- ① 自分の大学の卒業生をスタッフとして採用しない。
- ② 内部昇格の回数に制限をつける。

このことを次の研究部員会議で議論する。任期の切れる研究部員はそれについての意見を出すこと、と決定。

8 国公立大学間の流動について

国公立の大学間を転職した場合に、給料の点、恩給、退職金等の問題があるので、自由な交流をさまだげているという意見が前回の研究部員会議で指摘され、具体的な問題点を調べるために小委員会が結成された。(中野、町田、川口、高木)

小委員会からの報告

- (1) 公立→国立、 私立→国立 へ移った時それまでの経験年数がフルに数えられず、一部分を2/3に数えられたりすることがある。
- (2) 住居の問題
- (3) 恩給および退職金は国私立間ではひきつがれない。

英国、米国の例では、国立、私立の大学が同一の共済組合に加入していてそこに加入している大学間を移動する場合には、恩給、退職金はひきつがれる。

これらの問題点を改善してもらうために、学術会議の待遇委員会に主旨を伝える役目をし、又次の研究部員会議までに具体的な要望案を検討するための委員会を結成(小野、古市、川口)

9 国際交流について

(報告) (小野) アンケートをとつた結果をまとめた。(資料参照)

これに対して意見がいくつか出された。

- 政府に大巾な予算要求を行おうではないか。
 - インシテントペーパーを出して文部省から何人かの枠で金が出る場合がある。
 - 研究者が自主的にコントロールできるところが必要。
 - 外国人の滞在費と共に旅費を請求すべき一概算要求で毎年出している。
- その他いろいろ議論された。(略)

10 将来計画関係

高木、小川、安野3氏から素粒子研究所(仮称)その他についての報告が行われ、それについて質問、議論が出された。(略)

11 その他

④計算センターの予算の件

(小野) 今まで機械の6倍の能力をもつ5020-Ⅱ運転、最近は非常に混んでいる。

4 1年度は国立だけ 料金 5020-E 200 円 /min
 5020 100 / min

公私立は無料、上京の折の特典もある。

(田中一) チェックプログラムが開発された。

④基研助教授の人事について

(湯川) 星崎氏が3月1日付で工学部へ行かれることになった。後任の性格について議論して頂きたい。

これについて若干の意見が出されたが、分野は広い意味での素粒子論ということになった。

⑧秋の物理分科会について

谷川氏より、神戸大学に会場（素、原、宇）が決っているが、生物の方と重つたので他に考えられないかとの相談が出された。

以上 (文責寒竹康江)

プレプリント案内

〔東大教養学部物理教室〕

.C.P.Enz: One-Particle Densities, Thermal Propagation and
Second Sound in Dielectric Crystals.

〔東大久保研〕

• Antiferromagnetically Coupled Spin Impurities in Ferromagnets (H.Callen and Yung-Li Wang)

Spin Deviation Probabilities in Ordered Magnetic Materials
(Herbert Callen)

"Current-Striction"- A Mechanism of Electrostriction in
Many-Valley Semiconductors (Phillipp Kornreich)